

南スラウェシ州における 災害とハザード・マップ

フィルダウス・ダウド マカッサル大学

Firdaus Daud (Universitas Makassar)



今日は時間が限られていますので、私が住んでいる南スラウェシ州における災害の様子をご紹介しますことでコメントに代えさせていただきます。

インドネシアは熱帯に位置しており、大きく分けて二つの季節があります。地形も多様性をもっていて、それがゆえにさまざまな気象の変化があり、津波などの災害も多様です。

■ 海浜部と山間部それぞれに特徴的な災害が起こるインドネシア

南スラウェシは海浜部と山間部とに分かれており、それぞれの地域に特有の自然災害が多く、とくに大洪水、地滑りが多発しています。

地滑りが多発するのは内陸部で山間部のボネ(Bone)県以下、Enrekang、Gowa、Palopo、Luwu、Luwu Timur、Luwu Utara、Pinrang、Soppeng、Tana Torajaの各県にわたっています。

大洪水が多発している地域は、半島の南西部および南東部、それから丘陵から都心部、平地にかけてのBone、gowa、Kota Makassar、Kota Palopo、Luwu、

Maros、Pangkajene Kepulauan、pinrang、Sidenreng Rappang、Soppeng、Takalar、Tana Toraja、Wajoなどの9つの県にわたっています。

また、干ばつ期には雨水が減少するので、このことによっても、特に海に近いところで大きな災害が起こります。

■ 法令の整備や情報伝達ツールの制作、短期・長期双方の計画が必要

このように多様な災害が発生しやすいところなので、適切な防災対策が必要です。法令や条例の整備が必要ですし、リーフレットやパンフレットなどのような情報を通達するツールの整備も必要です。

将来起こりうる災害による被災をできるだけ減少させるために、短期的あるいは長期的なさまざまな計画が必要です。一般の人たちに防災対策や必要な災害情報を伝えるためにも大学などにおける防災対策研究が必要だと思います。

以上が南スラウェシの防災対策とそれに関する大学の取り組みです。